

日一十月三

常 報 日 新 報

定価 一月五錢 三月十五錢 半年三十錢 一年六十錢
 廣告料 五錢 十二字 行金五拾錢
 印刷費 別紙 別紙 別紙
 日 報 祭 日 の 翌 日 休 刊
 行 務 所 常 務 編 輯 日 新 報 社
 電 話 六 二 〇 〇
 行 務 所 常 務 編 輯 日 新 報 社



シナリオ 湯狸討の仇

原作 江見水蔭
脚色 木津茂太郎

【四】

半三郎立上つて、窓から東光寺の高臺をみる高臺。

三人の仇敵、伊羅伴助、梶倉大次、輪貫兵馬の三人が旅装束で立つてゐる。

カメラ移動す。湯の里の屋根を越えてしづかに室内屋の二階へ。二階の窓へ。半三郎が此方を見て立つてゐる。

半三郎非常に喜ぶ。女中石段を登つて三人を迎へにゆく。

間もなく三人女中を先頭に石段を下りて室内屋さして来る。

深夜、半三郎床の中で眠られずにおる。眠らう眠らうとするが、下の大廣間に三人がゐると思へば、眠れない。

寝返りすること幾度。廊下を歩く足。

ミシリ、ミシリと歩く半三郎蒲團を跳ね退けて枕元の刀に手を掛け

る。

障子。ソロリ、ソロリと障子をあけかゝる。

それはお照である。瀬川様。もうおやすみで御座いますか。

安心する半三郎。お照さんか。

半三郎の枕元にお照座る。

わたしはお詫びに参りました。

アルミニウムの鍋が黒く汚れたらレモン汁を浸した柔かい布で擦つてから微温湯ですぐと美しくなる。

半三郎、詫びとはと云ふ。

お照。

明日の献立

朝みそ汁、里芋、菜

晝、鮮魚、鹽焼き

晩、煮びたし、かぶ、油揚げ

ついでお客があつた通り見えまして、酒の上の悪い方達ばかりなのでその方に引かれました。貴郎のお相手が愈り勝になりましたので、それでどうやらお腹立の御

様子

半三郎。そんな事はない。お照。

でも、その證據には今宵は御酒をいつも程召上らぬでは御座いませぬか。

半三郎。いや、今宵は少し氣分が悪いので……。

お照。御氣分がお悪いのなら少しお背中でも揉んで上げませうか。

お照そのまゝ立つて半三郎の後へ廻りかける肩を揉む白い手。

半三郎の半身。部屋の中。

移動して見せる。春の夜のやはらかない氣分。

白い手。

半三郎その手を握る。

半三郎手とお照の手。次第にカメラ遠のく。

二人の全身見えてくる。半三郎膝に手を置へて考いてゐる。

今照手姫！

半三郎考へてゐる。お照身を固くしてゐる。半三郎を見て、これほど眞情を見せても、何の反響もないので顔色を變へる。

産婆、看護婦

生徒募集

今、入學の好時期

……御希望の方は至急御申込みを……

新學期は四月八日より

平南町

平産婆看護婦學校

校長 清野 清子
電話三〇七番

貸切の……

御用命は！

獅子吼(四四九)ノ勢デ

マツサキ 眞先ニ……(マツサキ)

三九ニタクシーへ!!!



玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番

胃腸病薬の王座を占むる純漢法薬



霊効散(無効返)

松前 家傳
ホントに北海道で出来た靈藥が着荷致しました。今迄のは福島市内で製藥したので兎角の批評がありました。今度のものは眞正のもので奏効確なものです。服用しなくては其の眞價が判りませんから、皆様見本品を差上げます。御遠慮なくいらつしやつて下さい。見本品でも二日間飲まれますから胃腸病に苦しむ方、惱病、心臓、痔疾の方は是非御試下さい。クセにならず根治致します。小児用の靈効散も出来ました。

定價 試用分(八日分) 輕症用(廿日分) 五十錢 重症用(四十五日) 壹圓

販賣部 地方代理店 平町古銀冶町縣社ノ下

阿康藥舖

電話四四番

文部大臣平陽女學校入學案内

一、入學生徒募集人員

本科(修業年限二年)五十名 師範科(同上)三十名 技藝高等科(同上)五十名 技藝普通科(同上)五十名 専攻科(同一年)二十名 専修科(同一年以上)五十名

一、授業料値下と各科の授業料

本校は經濟界の不況に鑑み各科授業料の値下を斷行しました

本科一圓五十錢 師範科一圓五十錢 技藝高等科一圓三十錢 専攻科一圓五十錢 技藝普通科五十錢 専修科一圓

一、入學手續

志願者は入學願書に履歷書を添え三月三十一日迄に本校宛提出して下さい。受附順により入學を許可致します

石城郡平町

平陽女學校

平陽家政女學校

文部大臣 附設 電話 四四四番 振替口座仙臺五六八二番

農山漁村の娯樂は 映畫が第一位

浪花節や演劇が是に次ぐ

石城教育部會の調査

石城郡教育部會では過般來郡下農山漁村の娯樂について調査中だがその調査の結果に依ると現在は何といつても映畫萬能時代で映畫常設館並に映畫巡業團の手によつて郡下至るところの農山漁村に公開され歴倒的に觀覽者を得得してゐる次に演劇、手踊り、レビュの類は殆ど

から老人にかけては『後年願ひ』の神佛まゐりが頗る盛んで春秋二期の農閑期には部落單位の講中を組織してお札巡禮の觀音様まゐりやら三山まゐりにうき身をやつしてゐる更に冬期になればこれ等の部落に

は主として鎮守の祭りに青年の手によつて行はれグロテスク極まる演劇が公開されてゐる以上の如く本郡の農山漁村は娯樂を求め心が頗る熾烈となつて來たが比較的都會地に接近した村は恵まれてゐるが山奥の村や貧弱な漁村等にあつては頗る恵まれない状態に徒らに飲酒に快をむさぼつてゐるやうな弊風は容易に一掃されない模様である

農閑期を利用して町に開催されるもので山村には殆ど影さへ認められない浪花節、祭文に至つては凡そインキ極まるもので都會地を除いては所謂田舎廻りの藝術家？扇一本を身上に次の村から村へ渡り歩いてゐる

多門師團長の來平を好機として今回平町に創立された平國防研究會の今後の活動方針に關し協議する爲め昨夜藤田在郷軍人分會長宅に同會幹部及び關係者參集種々疑議を遂げた因に同會創立の趣意は左の如くである

を別たざるべからざる運命に逢著せり事茲に及んで吾々國民は益々其の團結を堅うし舉國一致國難に處する覺悟と決心とを喚起高調すると共に迅に國防の充實と完備に邁進せざるべからざるに國防研究の團體を組織し皇道の發揚と國防の擴充完成に寄與するは現下に於ける絶對的喫緊事にして又非國民の正に努

更に謡曲に至つては冬籠りの期間中全縣的に盛んになり若い青年達が花婿の一資格として盛んに練習してゐる將棋はこれまた盛んなもので中流以下の庶民階級の娯樂の王座を占めてゐる、最近ではオリンピック熱に刺戟されてスポーツも

青年間に相當流行しかけて來た更に中年ころ

△東京市荒川區町屋三丁目

むべき重大使命なりと信ず敢て憂國の士を叫合し平國防研究會の創設を提唱する所以なり希くは先覺達識の士の奮つて御加盟あらん事を

植田方部

消防幹部

聯合大會開催

石城郡植田警察管內二町八ヶ村消防組の聯合幹部大會は來る廿一日午前十時より植田町菊田座にて催される

更生講習

郡内各所に

既報本縣主催國民更生講習會は十五日に平町に開催する外十四日には錦小學校廿五日には平窪小學校等にそれぞれ催されると

産業組合

提出事項協議

石城郡産業組合會では來る十四日午前十時より團體事務所樓上にて役員會を開き十七日開催される組合總會の提出事項に就いて協議する筈

二ヶ年繼續の砂防植栽工事

山林技師踏査の上に廿日頃から着工

石城郡平窪、夏井、草野、勿來各町村に於ける河川や海岸十二町歩に亘る砂防植栽工事は二ヶ年繼續事業として豫てより縣山林課で調査中であつたが昨日縣山林課の山田技師外二名の係員が來平近く實地踏査の上廿日頃より着工の豫定である

平町人事

△一丁目十五 山田正氏二女節子
△結婚 姻
△東京市荒川區町屋三丁目

平町人事

△鎌田町二四佐藤倉吉(七八)
△仲町一六 出浦シヅ(五八)

磐城共濟病院案内

院長 醫學博士

石山謙 邸
自宅(電話一二四番)

- 内兒科 醫學博士 石山謙
- 外科 醫學博士 石山謙
- 喉科 醫學博士 石山謙
- 皮膚科 醫學博士 石山謙
- 産婦人科 醫學博士 石山謙
- X光線科 醫學博士 石山謙
- 衛生試驗所 醫學博士 石山謙
- 藥局 醫學博士 石山謙

平町磐城共濟會

電話六四一番

御贈答に!!!
記念品に!!!
諸景品に!!!

漆器を!!!
誠實勉強
親切第一
在庫豊富

是非御用命を
ドコヨリモ、ヨイシナラ、ドコヨリモ、ヤスクウ
ル、又リモノミセ
平町三丁目北裏(元郵便局裏通り)

各國産漆器
専門卸小賣
漆器店

専門 内科一般

住宅診 内科は何でも診療致します
往診 呼吸器病ばかりではありません
平町南町六五

川井内科診療所

醫學士 川井重之
電話一八一番
川井安子

女給専門の

詐欺師平署に捕る

素人美人の寫眞を

常に多數懷中して

六縣下を荒す

昨十日午後五時頃平署に用町の某カフエーから女給を誘拐しやうとする怪し氣な周旋業者が來て居るとの知らせに依つて

山居住西川常次(三)は精神病者として監視中去年二月午後四時頃家人の不在中行衛を晦したが三日に相馬郡署へ家人から捜査願があつ

中村町を徘徊して居た事が判つたので今頃は平町附近に行きはしないかと本日平署へ家人から捜査願があつた

署員が 急行逃走せんとする件の男を本署に引致して取調へると豫てより同署で手配中だつた詐欺窃盜前科四犯石城郡好間村字北好間生れ當時住所不定根本梅治(三)と判明した同人は去る九日内郷村字綴のカフエー石黒鐵男方に女給を周旋すると稱して前金十一圓を騙取して

逃走した外同様手段で縣内及び宮城、山形、新潟、栃木、茨城の各縣を股に掛けて女給専門の周旋詐欺五十餘件を働いた旨自白したので同署では目下各地に照會中であるが同人は常に素人美人の寫眞を多數持參しては巧みに誘拐や詐欺し廻つて居たものであると

今頃は……

平町附近に 精神病者の捜査願 宮城縣互理郡大友村字西

震災地から本郡へ

魚肥の註文が殺到

鯛の豊漁であぐんで居た處

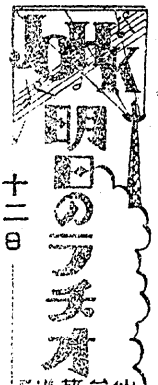
移出増加に努む

既報石城郡各漁濱の魚肥は從來鯛の豊漁で値下りを呈し僅かに金肥の高騰を機會として各農家に賣込んで居た處今回の三陸地方震災で岩手、宮城の海岸では魚肥の生産工場倒壊の結果兩縣山間農村より小名濱、江名等の魚肥製造業者へ盛んに注文があり最近は一、二、三百貫平均に移出して居る状況なので小名濱山名の當業者は少くも一日二、三噸宛は移出したいと努めつゝある由

動物園の開設は

けふ委員会が否決さる

昨報平町役場では本日午前十時から會議室に土木委員會を開き役場倉庫の模様替其他を協議した結果現在の役場入口右側建物内に新たに小使室を置き宿直室を改



今晚の部 今夜は北西の風晴曇半し明日は北の風大休晴れ海上荒れ模様

今晚の部 後六、〇〇 子供の時間 ハーモニカ 日本大學ハルモニカソウテイ指揮 矢島三千男 後七、三〇 講演 中央氣 臺象技師 國富信一 後八、〇〇 浪花節「清水次郎長」武藏野榮華嬢 八、三〇 但謡 平野すみ

前九、三〇 子供の歌 J.O.A.K.唱歌隊 前一〇、〇〇 宗教講話 本の編纂に就て一文部省圖書監修官 井上越 前一〇、一〇 講演「精神病の治療に就て」名古屋醫科大學教授醫學博士 杉田直樹 後〇、〇〇 滿州より熱河情況放送(錦州より中継) 後〇、五〇 新人の午後(義太夫、碁太平記白石嘶)豊竹志玉(長唄、喜の庭)唄、思田ろく子(清元當選した (區長 高田清一郎(世話係) 鹿島要助 岡部条之

鮫川の鮭

卅萬尾放流

石城郡植田町鮫川鮭養殖組合及び山田村人工鮭孵化場で孵化させた鮭は成績よく約一寸に成育したので例年よりも一ヶ月早く去る五日山田川から鮫川に卅萬尾を放流した

けさ一尺近い積雪

三月も半ばなのに

突然描き出した雪國風景

本年は平地方に降雪が多いと驚いて居た處昨夜又々降り出して今朝迄には一尺近くの積雪を見市内の街頭には大小の雪だるまが四邊を睥睨し先生に引卒された學童連の雪中行軍等あつて三月も半ば近い今日宛然雪國風景を呈したが電話線や電燈線には被害がなく農作の端祥かと喜ばれて居る

誘ひ出して

女中と同様に

石城郡勿來町大日本炭礦坑夫山本正吉(三)は本月一日同僚水野要三の妹トシ(三)を言葉巧みに誘ひ出し内郷村高坂字御殿に一家を構へて女中同様に働かして居た事を平署に探知され九日夜檢舉され誘拐罪で取調中

泉村消防組頭

石城郡泉村消防組頭齊藤昌孝氏は此の程家事の都合で辭職したので後任として村議佐藤清治氏が任命された

小橋橋竣工式

石城郡勿來町窪田字小橋地内の工費八千餘圓鐵筋コンクリート造り小橋橋は此程竣工近く盛んな開橋式を舉行すると

- 平職業紹介所報告
 - 回人を求める方
 - △女中 十六以上 尋卒 給料面談(平町某)
 - △雑夫 三十六迄 尋卒 月十圓位(小名濱町某)
 - △豆腐賣子 四十才 尋卒 賣上の二割給(平町某)
 - △染物外交 三十六才 尋卒 給料面談(平町某)
 - 回職を求める方
 - △事務員 二十九才 商業 中途 給料面談(平町某)
 - △探炭夫 二十四才 尋卒 給料面談(伊達郡某)
 - △コック 十九才 高卒 給料面談(平町某)
 - △工場雑役 二十四才 高卒 給料面談(平町某)
 - △鐵路工手 二十四才 尋卒 給料面談(平町某)

茶室

【茶室上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫
佐々木見山

第二百八十八席
醉拂つて山廻り

松崎采女に渡邊金彌は主人の乗馬松風小櫻に打乗つて馬丁二人を伴れ飛鳥山に櫻を見に参つた、何故に花見

人の長刀を佩して花を見るは不風流、しかもこれは一層不風流、人を押し分け山へ上つて行く、やがて櫻の下に馬をつなぎ

金「馬丁けふのお使は美しい邸であらう」
馬「イヤ驚きました、立花さまへお使者と云つて殿様の御乗馬に乗つて花見にお出でなさるとは、あなた方はお人が悪うございます」

金「お使者と云はねば殿の馬に乗ることは出来ぬ、結構な馬だナ、宇治川にて先陣を争ひし時佐々木梶原が乗つた池月摺墨にもまさり居るであらう、時に大分人が出て居るナ、この邊に酒を商ふ家はないか」

馬「向ふの掛茶屋に酒を賣つてあるやうですから買つて参りませう」
金「なんぞ肴を見つくりひそれを買つて来てくれ」

やがて馬丁は一升樽を提げて戻つて来たが、酒馬「樽は一升入ります、酒

は五合より入つて居りませぬ、今日は人出で毎時よりも買つてしまつたさうでございます」
金「そうか先づ一杯やれ馬「此處に茶碗がござ



ざいます之を盃の代りになさいまし」
金「さア、飲め、ど、うだ見ろ雪が積つたやうにこの山は花でうづまつて居るナ」

馬「きれいでござんすね上野は宮様がお在になりますから三味線をひいてさわす

ことも出来ませんが飛鳥山と向ふ鳥はどんなことをすればと叱られることはございませぬ、御覽なさい向ふの一群を、大きな男が踊つてゐます、格好のよいものぢやねえな魔のさした佛様のやうだ」
金「面白いナ、木の下の酒を飲みながら踊り狂ふ態を見てゐては大名のやうな心持だナ」

馬「わたくしもよい心持になりまして、酒に酔つてゐる間はお大名だ、これが醒ると馬丁になり

ます、五六

にある齊藤さんから聞きまして」
采「馬鹿なことを云ふな、法螺などが天に昇るわけがない、大きな嘘を申す事を大法螺を吹くといふは是等から出たことであらう、一寸山を廻つて見るかナ、渡邊一緒に行き給へ」

松崎は馬を馬丁にまかして置いて山を廻る、種々雑多な人間がゐます、唄をうたふ者もあれば、振ごとを見せる者がある、中には櫻の下に集まり短冊や色紙で向ひ俳句又和歌を詠じてゐる者もある、是等は風流人

△「瓦器をお投げなさい」と呼んでゐるは小僧、前には瓦器が積んでゐる
△「オイ小僧、瓦器は何程だ」
小「一枚四文でございます」
△「十枚ばかりくれ、さあこれを投げて見せるぞ、どんなもんだ」
とそれをサツと飛ばすクル、と廻りながら谷へ落ちて行く。昔は風流な遊びをしたもので、これは明治の十年頃まであつたさうで飛鳥山へ花見に行くと瓦器を投げる、子供のなぐさみには至極興味ある遊戯、今日はせちからなくなつてこんな事をする人はない。花見に行つてものはばかりに見てゐる、是ほどの人間が出てゐればなんぞ落したものがあらふとそれを探がしてゐます、櫻もあつけに取られてさても人間界はあさましいと一晩に花を散らしてし

まふ、江戸時代は人間も悠長でした、まして武士には碌もあり生活難がありませんから一層のんびりしたところがあつた
金「松崎見ろ、向ふに居る女を見ろ、美人だぞ」
云はれて松崎采女が見ると廿二三になる女と十六七になる娘が男を二人伴れて重箱を開き、蒔繪をした美しくい盃でなめるやうにお酒を飲んでゐる。

目丁二町平

三井タクシ

番五八六話電

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める
川崎巡
回文庫
電六三〇番
込次第(規則書進呈)

旭硝子株式會社製品
赤菱印
板ガラス
硝子 壺
硝子 食器
其他 各種
松崎硝子製作所
平町新川町(電話一四二番)
仙臺市榮町(電話五九七番)

磐城セメント會社特約店
久益屋商店
磐城平町五丁目 電話九番九九番
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は久の生命なり

江戸前料理
見習さん募集
十五歳より二十歳迄
錦水
電話四五四番

平新川町十九
外科 産婦人科
木村病院
電話一六四番
院長 木村寅次郎
産人科 醫師 木宗八
内臓外科 醫師 木宗八
整形外科 醫師 木宗八
器泌尿科 醫師 木宗八